

2022/11/20

テキスト: 士師記 6&7

今日の礼拝を続ける前に、今読んだ箇所でも語られた出来事で起こっているいくつかのことに注意を向けたいと思います。

おそらくメインイベントについて話す前に、イベントの設定を検討する価値があると思います。ここに、聖書にほぼ常に見られる古典的な傾向が見られます。特に旧約聖書です。再び、イスラエル人は罪を犯し、今、神によって罰せられています。神は彼らを敵の手に渡した-この場合はメデヤン人。旧約聖書でこのパターンが何度も繰り返されているのを見るのは悲しいことです。しかし、驚くべきことの1つは、イスラエル人が自分たちの過ちに気づき、主に立ち返るのにどれだけの時間がかかるかということです。しかし、私たちはいつでも神の愛ある恵みに感謝することができます。神の民が最終的に彼に叫んだとき、彼は耳を傾けました。さて、この傾向はイスラエル人に特有のものであるだけでなく、今日の神の民でさえ、何らかの形で罪に陥ることがよくあります。しかし、第一ヨハネ 1章9節が私たちに告げているように、私たちが自分の罪を告白するならば、神は忠実で公正であり、私たちの罪を赦し、すべての不義から私たちをきよめてくださいます。これが意味することは、「悔い改め」が不可能な程には神から離れることは決してないということです。

神がイスラエル人に答えたとき、私たちは神が状況全体についてどのように感じたかを垣間見ることができます。言葉による感情表現のように、神はご自身の事情を述べられました。神は、その国の幸福を確保するために山を動かした程の国への失望のように感じるものを表現しますが、この国は、神がその国に要求したことの1つ、つまり神に忠実に仕えることをしませんでした。今朝、自分自身を調べて、私たちもある意味で、神の愛と恵みに不誠実で返礼するイスラエルの国に似ているかどうかを確認したいと思います。不十分な部分がある場合は、悔い改めを遅らせるのではなく、それを告白して修正する必要があります。

ギデオンの主人公に移ります。ギデオンは、マナセの部族の小さな一族であるアビエゼルに属するヨアシユの息子でした。私はある牧師がかつて、名前はしばしば登場人物がどのようなものになるかを予見すると言ったのを覚えています。そこで、ギデオンという名前の意味を調べたところ、(切り株のような手があるため)偉大な戦士を指す hewer という言葉に由来する「切り倒す人」を意味することがわかりました。ギデオンのキャラクターが最終的にどうなったかを考えると、これは興味深いと思います。

この聖句の出来事をもう少し深く見ていきますので、人格とギデオンという人物というレンズを通して自分自身を見てほしいと思います。彼のキャラクターと私たちの間に存在する可能性のある類似点を見てほしい。これは、聖句からの実践的な教訓と応用をよりよく視覚化するのに役立ちます。

ギデオンは最も簡単な方法で紹介されました。彼は小麦を脱穀していました。彼の過去に言及された印象的なものは何もありませんでしたし、彼が占めていた重要な役割もありませんでした。彼は自分の部族の小さな一族の出身であっただけでなく、自分は家族の中で最も重要ではないと考えていました。彼は間違いなく、神からのいくつかの確認を得た後でも、少なくとも彼の国の救出のようなものではなく、主要な仕事に十分であるとは思っていませんでした。これは、ギデオンがいかに平凡であったかを物語っています。ネガティブな意味ではなく、私たちも今日の自分自身を見ることができるよう、普通と言っているのです。ギデオンは懐疑的で、今日の私たちと同じように疑問を抱いていました。私が言いたいのは、何らかの形で、私たち内にもギデオンがいるかもしれないということです。神が行っていること、またはできることを私たちが見ているにもかかわらず、いまだに疑問を抱いている人です。これが私たちの現在の姿かもしれませぬし、かつての私たちの姿かもしれませぬが、神が私たちが信仰と完全な信頼の場所に連れて行ってくれることを祈ります。

ギデオンに最初に天使が近づいたとき、「主はあなたと共におられます…」という天使の挨拶に応じて、ギデオンはなぜイスラエルに災害が起こったのかと尋ねました。ギデオンは、神が過去になさった偉大で驚くべきこと、父親たちから聞いたすべて思い出しました。そして彼は、神がそれだけのことをすることができたなら、そして今、彼らがそのような困難に直面しているなら、可能なことは1つだけであると結論付けました。- 神は彼らを見捨てたと考えました。繰り返しますが、これはギデオンのもう1つの関連する側面です。神が私たちが忘れてしまったり、限界に近いのに、私たちのことを気にかけていないと感じたことは何回ありますか？ 神がなされたこと、しかし、私達自身には起こらなかったのを聖書で何度読んだことがありますか？ 私たちは何度、他人を見て、私たちがそうではないのに、他の人がはるかにうまくやっているように見え、神の恩恵を享受しているように見えるので、神は間違いなく私たちを見捨てたと思ったことがありますか？ さて、喜んでご報告いたします。

神は、一時も私達を見捨てられる事はありません。先週のマタイ 6 章で読んだように、もし神が花や鳥のことを気にかけておられるなら、神は私たちのことをもっと気遣ってくださらないでしょうか- 神に似て作成された私たち？ 神は常に私たちが神の手に委ねており、私たちが何を経験していようとも、すべては神の支配下にあるという安心感を得ることができます。私たちは（イスラエル人がそうしたように）神のことを忘れることはできますが、神は私たちが忘れてたり見捨てたりはしません。そして、この聖句はこれを裏付けています。なぜなら、神は民が彼に呼びかけたときに耳を傾けただけでなく、ギデオンがこれらの発言をしたとき、神は、国家が救われる事を告げに来た神の天使の事を、意味していたからです。

ギデオンの呼びかけについて言えば、出エジプト記 6 章に記録されているものと非常によく似た呼びかけと、同様の応答が見られます。基本的に、神は人を呼び、人はそれがうまくいかない論理的な理由を与えます。ギデオンとモーセの反応は、人間にとって非常に自然なものです。しかし、そのどこが間違っているかは、神の働きと人間の働きの主な違

いを強調しています。人間の場合、私たちはどこでなにをするか、仕事の割り当てを与えます。私たちは人々に行って、いくつかのタスクを実行するように割り当てます。上記のタスクを達成する可能性と実行可能性は、割り当てられた人の能力と利用可能なリソースに大きく依存します。これが、ギデオンが合理的な心の中で、強力なメディア人からイスラエル人を救うことは彼には不可能だと考えた理由です。神に召されて何かをするときはいつでも、私たちも同じように感じますか？私たちは、それを達成する可能性が私たちの能力と利用可能なリソースにかかっている仕事を神が私たちに割り当てられているように感じますか？しかし、神は人のようには働きません。神が私たちに召すとき、彼は達成すべきいくつかの目標を持って私たちを送り出し、別れを告げるだけでなく、むしろ、彼の召しは提案、つまり私たちを通して神が神の働きをすることを許すという申し出です。私たちの個々の能力は役に立ちますが、神の働きの中心にはありません。その名の通り、神の仕業です。神から離れた瞬間、私たちはそれを仕事にし、私たちが行う他のすべての仕事と同様に、私たちの能力が重要な要素になります。

6章16節を見ると、この箇所すべての鍵となる神の深遠な言葉が見られます。神はギデオンに「私があなたと共にいる。だからあなたは、一人残らずミデアン人を打ち倒すことができる」。ギデオンが成功したのは、内なる能力や強力な軍隊があったからではなく、神のおかげでした。今日の私たちも同じで、神に頼る時、私たちは力強いことを成し遂げることができます。パウロはピリピ人への手紙の4章13節で、「私を強めてくださる方のお影で、私にはすべてが可能です」と書いています。

神はメディア人からイスラエル人を解放するためにギデオンを召されました。神がギデオンに最初に行かせたのは、彼の町の偶像の場所を取り壊し、それらを主への井戸建設祭壇に置き換えることでした。これは、聖化または浄化のプロセスにたとえることができます。国家の救出は重要ですが、彼らが神に対して正しいことはより重要です。これは、喜んで神に用いられる私たちにも当てはまります。神が私たちを通してできることはたくさんありますが、私たち自身の生活を聖化することは非常に重要です。これは、パウロがコリント人への第一の手紙9章27節の書簡で書いたことです。「むしろ、自分の体を打ち叩いて従わせます。他の人々に宣教しておきながら、自分のほうが失格者にならないめです。」私たちは、私たちの生活やあらゆる不潔や不義を取り除き、神が私たちの中で最高の統治をすることを許す必要があります。先週読んだマタイ7:21-23は、イエスの名によって神のメッセージを説き、悪霊を追い出し、多くの奇跡を行った人々について語っていますが、裁きの日に、イエスは彼らにこう言います「私はあなたのことは全然知らない。不法を働く者ども、私から離れ去れ」。ですから、これを簡潔に言えば、神のために世界を征服する前に、神が私たちの心を征服することを許すべきです。神は、私たちが神のためにできることに関心があるだけでなく、私たちの心にも関心をお持ちです。私たちが神に捧げることができる最大のものは、私たちの奉仕ではなく、私たち自身です。繰り返しますが、私たちが神に捧げることができる最大のものは、私たちの奉仕ではなく、私たち自身です。ローマ人への手紙12:1-2は次のように述べています。「こういうわけで、きょうだいたち、神の憐

みによってあなたがたに勧めます。自分の体を、神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして  
獻げなさい。これこそ、あなたがたの理に適った礼拝です。あなたがたはこの世に倣っては  
なりません。むしろ、心を新たにしてお自分を造り変えていただき、何が神の御心であるのか、  
何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるのかをわきまえるようになりなさい。」  
私たちはまず自分自身を捧げ、神がそれを支配することを許すべきです。

今、神はギデオンを呼び、彼は答えました。偶像の祭壇は取り壊され、主への祭壇に取り替  
えられました。メディアン人と戦うために軍を集める時が来ました。そこで、ギデオンは  
当然のことは行いました。彼はできるだけ多くの兵士を集めて戦いに参加させました。約  
32,000 人でした。メディアン人とそのラクダは数え切れないほど多く、ギデオンはまだ  
32,000 人しかいないことを示唆しているということを以前に伝えられたことを思い出して  
ください。しかし、人間の論理に反して、神は、一緒に働くにはあまりにも多くの人々で  
あると言われました。神が 32,000 人、あるいは 100 万人の兵士でギデオンに勝利を与え  
ることができなかつたわけではありません。それは誰が栄光を得るかの問題でした。神は  
ご自分の栄光を分かち合いません。イザヤ書 42:8 は次のように述べています。「私は主、  
これが私の名」。私は他の誰にも私の栄光を与えず、彫刻された偶像と私の賛美を分かち合  
いません。” 人間的に言えば有能な軍隊を編成しようとするギデオンの努力は、勝利の栄光  
を神と分かち合います。勝利は彼らの能力によるものであり、神によるものではありません。  
このため、神は男性の数をわずか 300 人に減らします。この数では明らかに勝利を収  
めることは不可能であり、勝利は奇跡にすぎません。したがって、神の働きです。

私はこれを自分自身で直接体験しました。数年前に学校に通っていたとき、為替レートの  
問題が原因で、学費が不足していました。状況が良くなることを期待して待ち続けましたが、  
悪化するだけだったので無駄でした。支払いまであと 1 週間ほどあるので、締め切りが  
迫っていました。両親に負担をかけたくなかつたので、私はそれについて祈りました。神  
への祈りの中で、神の備えが私の唯一の計画であり、バックアップの計画はないと言ったこ  
とを覚えています。もし私が支払うことができたなら、それは完全に神の備えであり、私  
が支払うことができなかったとしても、それは完全に神の責任でした。本当に他に計画がな  
いことを神に示そうとして、私はそれについて誰にも話さないことに決めました。私は状況  
に影響を与えるつもりはありませんでした。さて、何が起こったのか推測できます。実際、  
神は私が必要とする正確な量を、それ以上でもそれ以下でもなく提供してくださいました。  
彼は締め切りまでに約 2 日も余裕を持って提供してくれた。

私が言おうとしているのは、神がご自身のために完全な栄光をお受けになることを私たちが  
信頼できるとき、神は驚くべきことをなさるということです。多くの場合、私たちは彼を十  
分に信頼していないか、自分自身に栄光を与えたいと思っています。あちこちで賛辞をもら  
い、他の人が賛美を歌うのを聞くのは確かに気分が良いことを私は知っていますが、これは

神の全能力を私たちから奪います。第2コリント 12:9-10 で、パウロは次のように書いています。「<sup>9</sup>ところが主は、“私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ”と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、私は、弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりの中にあっても、キリストのために喜んでいます。なぜなら、私は、弱いときにこそ強いからです。」私たちは弱さの中にこそ神を見ます。神が私たちのためになされた最大の働きは、私たちの最も弱い状態、つまり私たちの救いの働きでした。神が強くなるのを許すためには、弱くても構いません。私たちが神に余地を与えれば与えるほど、私たちはより多くの神を見るようになります。今朝、自分が強すぎて神が働きかけられないかどうか自問してほしい。神ではなく自分に栄光がもたらされるように、神の働きに取り組んでいませんか？

この箇所の最後の部分には、聖書の中で最大の励ましと自信の向上の1つが示されています。ギデオンが要求したすべての印の後、彼はまだ疑いを持っていました。彼は自分が神に対処していることを知っていましたが、物事がどのようにうまくいくかを見ることができませんでした。彼は自分が強力な戦士ではないこと、最強の軍隊を持っていないこと、そして間違いなく最大の軍隊ではないことを知っていました。彼は、メデヤン人が大勢で、倒すのは難しいと確信していました。すべての兆候の後、彼の信仰は十分に強いだろうと想像するでしょう。しかし、神はギデオン自身よりもギデオンのことをよく知っていました。神は、何が彼の自信と信仰を高めるかを正確に知っていました。神は彼にしるしを与えただけでなく、確認を与えました。敵の口からの確認。神は私たちを知っており、私たちの弱さを知っています。私たちの不信仰を助け、信仰を強めるために彼に頼るなら、彼はそうするでしょう。マルコ 9:24 で次のように言った人のように。「信じます。信仰のない私をお助けください。」これが私たちの祈りになることをお勧めします。神が私たちの不信仰を克服するのを助けてくださるよう祈りましょう。私たちの能力ではなく、彼に完全に頼ることができるように。神がギデオンに与えたと信じる助けが、別の反応をもたらしたことがわかります。彼はひざまずいて礼拝しました。その瞬間、彼はもはやサインや確認を必要としなくなりました。それは究極の確認でした。今日の私の祈りは、神が私たち一人一人に信仰を高め、神への信仰と信頼を堅固に植え付けてくださることです。

かなりの数のことを学んできたことを知っているのも、これまでに話したことを簡単に要約したいと思います。

1. 聖句のメインイベントの準備の中で、私たちは決して神から離れた悔い改めの行為以上のものではないことを確立しました。主に立ち返る前に、深く罪を犯したり、長い間不義の道を歩んだりしてはなりません。
2. 主人公のギデオンは、自分自身を平凡な人間と見なしていましたが、神は彼を偉大な人

物と見なしていました。神の天使は、彼について何か偉大なことが語られるずっと前に、第6章の12節で彼を強力な戦士として呼びました。神が私たちの目を開いて、神をありのままに見るだけでなく、神が私たちを見ているように自分自身を見ることができるよう祈ります。

3. 聖書のすべての偉大な登場人物がそうであるように、神の御使いに応じたいという意志は最高の能力です。ギデオンは、神が彼に命じられたことを達成できる可能性があるかどうか疑問に思っていることがよくありますが、確かなことの1つは、神がそれが可能であることを証明する限り、彼は喜んで対応できるということでした。「可用性は最大の能力である」ということわざにあるように、神は私たちのために多くのことをしてくださいますが、私たちが神の働きに参加できるように強制されることはありません。その選択は私たちに委ねられています。今日、あなたは何を選んでいますか？神に利用できるかどうか？神の御用に供されることをお勧めします。

4. 神のために世界を征服するために出かける前に、神に私たちの心を征服していただく必要があります。私たちは人生の中で神を第一とし、神が私たちを好きなように使ってくださいるようにする必要があります。神のためにできることに集中しすぎたり、夢中になりすぎたりして、自分の心の在り方を無視してはなりません。神は、何よりも神への忠実さにおいて、私たちの救いを喜ばれます。

5. 神の働きを行うことと、神が私たちを通して働くことを許すことの間には、微妙ではあるが重要な違いがあります。私たちは自分の能力や資源に頼って神の働きをするのではなく、自分のすべてを神に捧げ、神が私たちを神の栄光と神の栄光のためだけに使ってくださいるようにします。自分の努力と能力で神の働きをしようとすると、大きな負担になります。私たちは彼に自分自身を解放し、彼が私たちを通して働き、私たちに必要な力、恵み、そして助けを与えてくれるようにしなければなりません。彼の恵みは豊かで、常に十分です。

本日は締めくくる前に、個人として2つの質問について考えてみたいと思います。私たちがここに座っているだけでなく、私たちのクリスチャン生活の中で毎日、常に考えるべきことがあります。

1. 私たちは、神が私たちを使うのは神の栄光のためであり、栄光は私たちのものではないと言いました。ですから、問題は、あなたがしていることを自分自身の賛美と栄光のためか、それとも神の栄光のためかということです。

2. そして第二に、あなたがまだあなたの熱で疑っていることは何ですか？神はあなたを呼んでいますか、それともあなたの心に何かを置いていますか？今日、神を信頼し、信仰の一步を踏み出しましょう。神に任せてください。例えば、ここOICには多くのミニストリーがあります。主はあなたをある方向に向けておられますか。その静かな小さな声に耳を傾けてください。神の助けを信頼してください。今日のあなたの答えを「聞いてください、主よ」としましょう。